

地域のコミュニティでは、近所づきあいを敬遠したり、他人から干渉されない生活スタイルを好むような傾向がある一方で、孤独感に悩んだり、問題を抱えたときに助けを求める人がいないなど「つながり」の希薄さが問題となっています。

市民アンケート調査によると、サークル活動などの生涯学習に取り組む目的は約38%が「友人や仲間を作るため」と回答しています。共通の趣味や活動を通して、友人が増え、自然と「つながり」が生まれます。

また、約58%の人が、学んだ成果を「地域で生かしていきたい」と回答しました。「身近なところで活動できる」ことも参加しやすい条件としてあげられています。その点、小学校や中学校は、子どもでも歩いて行ける身近な場所です。学校ではその地域の力を必要としているのです。

学校は身近な活動場所

下の図のように、学校運営協議会で先生や保護者、地域の人が学校運営のビジョンや目標を共有します。その目標を実現する際に活躍するのが、地域の皆さんです。さまざまな知識や経験を持つ個人や団体、企業、NPOなどが、目標を共有し、実現するために一緒に活動しようというつながりが地域学校協働ネットワークです。組織ではなく、人と人のつながりによって、広がるネットワークです。

このような活動の中で、地域の皆さんのつながりも広がり、生きがいづくりや安心して暮らせる地域づくりにつながります。

学校運営協議会に委員として参加しながら、学校(学校運営協議会)と地域学校協働ネットワークをつなげ、学校と地域が連携した取組(地域学校協働活動)を実現させる大事な役割を担うのが「地域コーディネーター」です。

ネットワークを広げる

地域がつながる 学校でつながる



家庭・地域・学校の協働活動

学校運営の「見える化」

「将来、日本の労働人口の49%の仕事がAIなどに代替される可能性が高い」という研究結果が出ています。

こうした大きな社会変化の中で、子どもたちの教育は、学校だけではなく、地域社会での多様な経験や価値観を持った人々との交流、トライ&エラーを繰り返しながら仲間と協力して物事を進めていく体験などの「生きた学び」を取り入れていくことが大切です。保護者、学校に加え、地域総がかりでみんなが社会の宝である子どもたちを「自分中心として育てていくことが求められています。

そのために重要なことは、学校運営の「見える化」です。まずは知

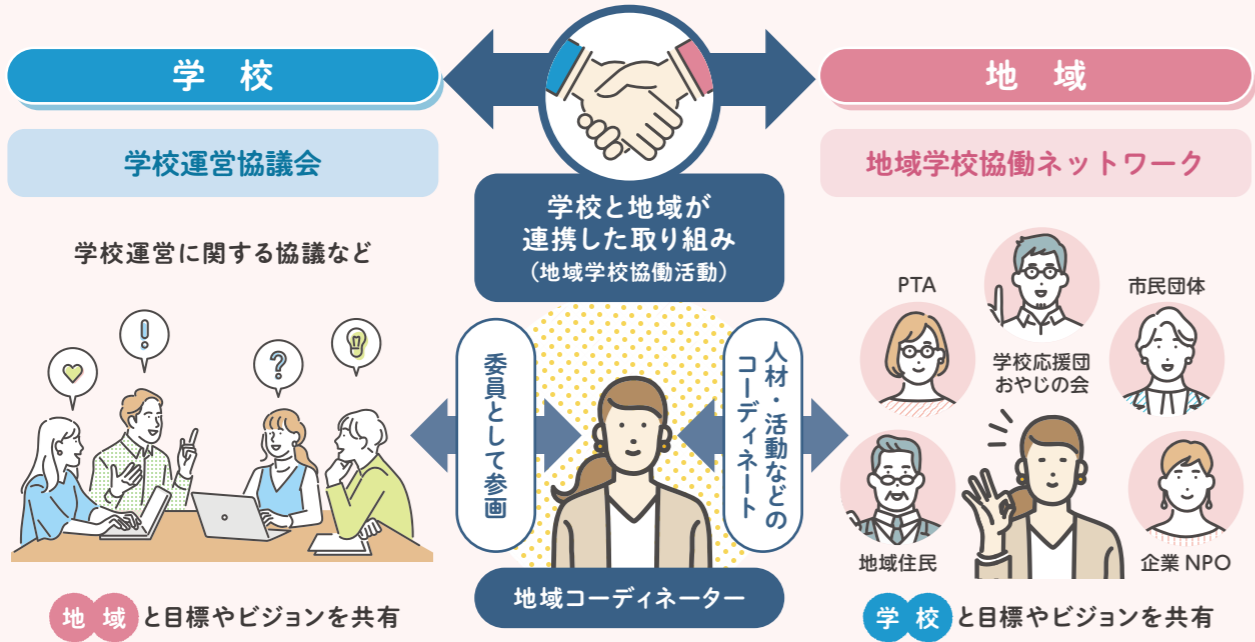
子どもたちを真ん中において、より豊かな教育環境や地域のつながりづくりを進めている「地域学校協働活動」の取組をご紹介します。

☎ 社会教育課 (TEL 049・220・2087)



ついでに、関わっていただくために、学校からの情報発信だけでなく、学校運営のビジョンを作る過程で保護者や地域の人も参加していただき、議論を重ね、一緒に学校運営に取り組む場が必要です。それが、全小・中学校に設置されている「学校運営協議会」です。

ふじみ野市版 コミュニティ・スクール 地域協働学校



教師の力 100% + 地域の力で子どもを育てる



制度がスタートしたばかりで、地域や学校でも「学校運営協議会」や「地域コーディネーター」がどんな役割を担って活動しているか、理解がされています。

地域コーディネーターは何をする人なのかを知ってほしい

が、「地域コーディネーター」という肩書きと、市の後押しもあり、動ける範囲が増えてきました。困りごとや提案を学校運営協議会で話していけるようになりました。

地域と学校をつなぐ授業のサポート

地域コーディネーターの仕事の多くは、子どもたちの授業に必要なサポートをつなげることです。例えば昔あそび体験・スマホ講座

「職員室にいらっしゃるけど、あの人はいったい誰なんだろう」「あの人が何を願っているのか」「あの人だろ」と思う先生もいらつしやると思います。ことし東原小学校に異動してきた先生たちにもわかるように、新学期には職員会議で数分の時間をいただき自己紹介のチラシを配りました。

地域コーディネーターの役割を知ってもらうため、保護者向けに活動報告のチラシを配布したり、町会のお祭りに顔を出したりしています。次に引き継いだ地域コーディネーターの人も活動しやすいような道筋を作っていけたらいいと思います。



の手配、ことし初めてのプールボランティア募集やまたたんけんの店舗探しなど行いました。

今、教員不足とニュースがよく聞きますよね。教員免許がなくてもできる各所との調整を私が行うことで、少しでも先生たちの準備時間が増えたら嬉しいです。地域やボランティアが学校に関わることで、子どもたちも見守ら

人とのつながりが好きな人、地域や学校にお手伝いしたいと思っている人は近くにいます

学校でのボランティアに参加したいと思っている人は、一定数います。ただ、一歩踏み出すのが難しい。参加した人からは「子どもの姿が見られてよかった」「また参加したい」と感想が聞けると嬉しくなります。帰り際に「いつもありがとう」「来年また学校にいられるの?」と声をかけてもらった時は、地域コーディネーターの事が広がっているのが感じられ、疲れも吹っ飛びました。市内の19校それぞれが特色あるスタイルを持っていきます。地域コーディネーターがいることで、子どもたちのために動いてくれている各団体の思いをつなげて、なおかつ地域全体で子どもたちを育てていけるのが一番の理想です。そんな仲間を増やしていきたい、つながりの橋渡しができたらいいなと思っています。

地域コーディネーター

interview

これまでは、学校から地域や保護者に呼びかけて子どもたちの成長や学びへの協力を得てきましたが、先生が異動すると、地域とのつながりが途切れてしまうことや、地域の人材情報が不足するなどの課題も多くありました。

そこで、学校運営協議会で決まったビジョンや目標の実現に向けて、地域の力を活かした教育活動をさらに充実させるために、令和4年度から学校と地域をつなぐ地域コーディネーターを全小・中学校に配置しています。

今回は、東原小学校地域コーディネーターとして活躍する松尾静さんにお話を伺いました。

地域と学校をつなぐひと



東原小学校
地域コーディネーター
松尾 静さん

きっかけは子どもの学校の様子が気になり、PTA本部で学校に関わったこと

子どもの学校での様子が気になり、PTA本部で活動していましたが、そのきっかけで学校運営協議会に入って、さらに広い範囲で学校に関わっていききました。ここでは、地域の方のお話だったり、当時のPTAの悩みだったり、学校側の教育活動の現状だったりを身近に聞くことができました。話を聞いていると、なんとなくみんなの連携が取れてないという

感じがありました。各ボランティア団体が個々に活動し、横のつながりもあまりなく、学校との連携もそれぞれが行っていましたし、「情報共有ができていない」と感じていました。

せっかく、学校運営協議会があるんだから、その場でお話し、みんなでベクトルを同じ方向に向けて、何か大きく動くんじゃないかと思いながら活動していたら、地域と学校の調整役という「地域コーディネーター」という活動が始まるが、やってもうえないかと、校長先生から声をかけていただいたのがきっかけです。

「肩書き」の心強さでつながりを広げる

「地域コーディネーター」という市の制度が始まり、自分が何者なのか、どんな役割を担っているのかなのかという、「肩書き」ができてこそ、うまく周りが動き出したと実感しています。

今までは、ボランティア団体の一部で活動していましたが、だんだん学校に行っていると、「なんとかしたいな」という思いがあっても、その立場が無かったのです



地域と学校が理解し合いつながる「場」をつくる

point

1 地域と学校をつなぐ

部会制で議論を深める学校運営協議会

「会議」となると気負ってしまい、活発な話し合いができない…。そこで、大井小学校では、少人数に分け、各部会で活動しています。

心づくり部会では「あいさつ」を重点とし、子どもたちが「あいさつキャンペーン」に取り組んでいます。学びづくり部会では、先生と地域コーディネーターが直接話し合い、さまざまな授業の充実につながりました。体づくり部会では、夏休み中のラジオ体操が自治組織の協力で復活し、地区を超えて子どもたちが参加しました。環境づくり部会では地域の安全マップを作成し、家庭や地域、授業でも活用しています。



地域と学校をつなぐ3つのポイント



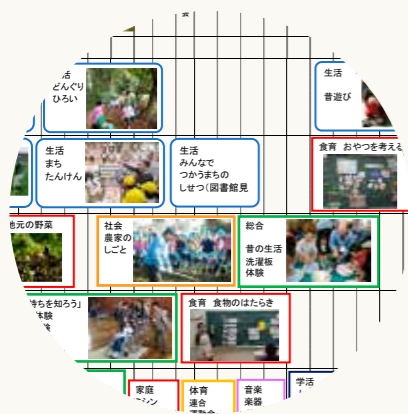
point

2 活動の見える化で取り組みをつなげる

カリキュラムカレンダーで地域と学校の連携を共有

東台小学校では、いつ、どの単元で、保護者や地域の方の協力を得て、どのような学習をしているのかが一目瞭然のカリキュラムカレンダーを作っています。

職員室の壁に用紙を貼り、先生たちに付箋で学習内容や協力者の名前などを書いてもらい、年間指導計画や年間行事予定を見比べ、教頭先生と地域コーディネーターが補足しながら仕上げました。これなら、異動や進級で担当の先生が変わっても、同じ取組が継続できます。保護者や地域の方も、どのようなことで地域と学校が協力しているのかが分かります。



カリキュラムカレンダーの一例

point

3 人と人を学校でつなぐ

誰が来てもいい場所を学校に作る

三角小学校では、学校に自由に足を運べる場を設け、地域の人にも一緒に学校運営に参加してもらい、学校を中心とした地域の活性化や先生方の働き方改革につなげていこうと「多目的トライルーム」を開設しました。

ねらいの一つ目は「顔見知り」を増やし、人のつながりを広げること。二つ目は顔見知りの大人が校内を行き交うことで不審者が侵入しにくい環境を作ること。三つ目は教室に入れない子どもへのステップアップの場とすることです。活動している大人たちのかたわらで、就学前の子が遊ぶ場にもなっています。



地域・学校の声 ～東原小学校～



もがき 茂垣 校長

学校と地域が連携、協働し共に子どもたちを育てていくのが本校の目指す教育です。東原小学校のために動いてくださる地域の方の姿を見て育った子どもたちが、将来、この地域を背負って立つ大人となり、本校の教育に貢献してくれる人材となる、そんな好循環を共に創りだしていきたいです。

総合的な学習の授業では、授業のビジョンを説明し一緒に話しながら、地域の方へつなげていただき、資料作成などもサポートしてくれるので、一緒に授業を作っている仲間という感じです。

しらいし 白石先生



あいの 相内先生

細かいところまで気遣いをしてくださり、調整してくれました。一度、地域の方とつながることができると、来年の担当も今ある資料を基にもっと深みのある良い授業ができると思いました。



まつお しずか 松尾 静さん
地域コーディネーター

授業に関わる「人材探し」は適任の方を見つけるのが大変で、地域のことを分かり、つなげてくださる松尾さんの仕事は、質の良い素材を学習できることになり、学習面で子どもたちのためになっています。

ながしま 長島先生



自治組織や地元で活動している人たちは、独自のつながりがあるので、どこにどんな人材がいるか知っています。地域コーディネーターから声をかけてもらえると、人やお店を紹介でき「子どもたちのためならサポートしよう」という気持ちがあるので、松尾さんにはつなげてもらい、さらにつながりが広がっていくのも良いですね。

かみき 神木さん
地域の声



子どもの学校での様子を見られるというきっかけでボランティアに参加しました。「何を手伝ったら？」と不安もあると思いますが、地域コーディネーターの松尾さんが学校で必要なサポートについて、ボランティアを調整し、集まった保護者同士で自己紹介から始まり、その後も、保護者同士のつながりが広がっていくので、みんなで子どもを見守っている感じです。



プール授業ボランティアに参加の皆さん



うちだ 内田 さん
東原小学校 保護者

みんなで作る学校と地域

report



つながりが大きな力に

各学校では、家庭・地域と学校の協働や地域コーディネーターの活躍により、地域の力を生かした授業支援や活動が行われています。今回は5つの学校の取組をご紹介します。

さぎの森小学校

伝統を伝える

「地域の歴史教え隊」(学校応援団)の指導で、小学2・3年生が小正月に飾る「まゆ玉」を作り、保護者や地域の大人が蒸して梅の木に飾りました。また、駒林八幡神社が子どもたちの思い出の場所になってほしいとの提案で、子どもたちから歌詞を募集し、駒林八幡神社の歌をつくりました。きっかけは学校に配布した交通安全を願うひまわりの種でした。今年も神社には子どもたちが種から育てたひまわり120鉢が花を咲かせました。



福岡小学校

花壇から心にも花を

学校応援団の花壇ボランティアでは、植え替えや花摘み、種から苗づくりなどを行っています。「小さな区画で作業するのは、達成感を得るため。活動を長く続けるためのコツです」と代表の田中さん。地域の方が「安く手に入ったから」と苗を分けてくれることもあるそうです。校務員さんの協力も得て廃材を使って花壇づくりをし、昨年はハロウィンをテーマにした花壇で、ふじみ野市花いっぱいコンクール最優秀賞を受賞しています(2年連続)。



西原小学校

あいさつも楽しみ

スクールガードリーダーの大島次雄さんは現在82歳。約30年間、交通量の多いこの交差点に立って、朝と夕方に登下校する子どもたちの安全を見守っています。大島さんが来られない時は近所の人が代わりに見守りをしてくれます。「地域の方の協力があつて続けてこられました。子どもたちがあいさつしてくれるのが張り合いです」と大島さん。子どもとのちょっとした会話も楽しみにされているようです。



思いを共有できる地域づくりにもこれからも取り組んでいきます。

西小学校

廊下・トイレの仕上げ掃除

学校公開日の午後、保護者・地域・学校職員が協力して校舎の廊下とトイレの清掃を行いました。校長・学校運営協議会長・PTA会長の呼びかけで、保護者・地域の方が50人以上参加し、教職員も合わせて約100人での清掃作業です。子どもの手では落としきれない汚れもきれいになりました。3学期を「感謝の学期」とし、一斉清掃できれいになった廊下を再確認し、多くの人に支えられて学校生活を送っていることを子どもたちは学んでいます。



大井中学校

地域交流デー

昨年度から、10月末の土曜日を「地域交流デー」とし、地域と学校の交流を行っています。昨年は大井中学校主導のごみゼロ運動中心の活動でしたが、今年は自治組織主催の行事に生徒、保護者、学校職員などが参加する予定です。地域全体で生徒を育てるためには、地域の力を学校がお借りするだけでなく、生徒が地域に貢献しやすい環境をつくるのが大切と考えています。毎月10日の「あいさつの日」と合わせ、地域と生徒、保護者がつながり「地元、ふるさとっていいな」という思いが芽生え、その



ありがとうございます



市では、さまざまな地域・家庭・学校の連携事業(地域学校協働活動)が行われていますが、この活動は今に始まったことではありません。登下校の子どもの見守りや花壇整備、読み聞かせ、学習支援ボランティアなどに多くの地域の方が参加されてきました。紙面の都合上、全ての活動は取上げられませんが、地域で、学校で、ボランティアとして活動していただいている皆さんに心より感謝申し上げます。

教育委員会教育長 朝倉 孝

みなさんの小さなサポートも大きな力になります。一緒に参加しませんか。他の学校の地域・ボランティア・団体など活動の様子は、市ホームページをご覧ください。

